プロケカとと、 の一ケ月、解剖性に関する事 の一ケ月、解剖性に関する事

三濃間、皮膚短調室のため数様、皮膚経験薬力、丸月下旬

学的特質およびその教育経験所において議構人児童の

官制の改正に件ひ

本學の新編制成る

工、理、醫に三講座新設

職績とよるに閉始されんとしてゆる。そのうちすでに決定したものをあげて見る

三調館、鮮嶺の新興工場の翻信助教授へ向上入月二十日か

マ野頭教授(地球物理集教室)八月の復興状況の開発

文學部

大陸を學の狙上に

今夏も教授陣大進出

あらゆる角度から

青木破核の月曜湯馨「支船交人の 殿在野文人の生活 青木博士の月職講義をはる 土を征服した時に多く、元、周生を征服した時に多く、元、周

也帝大圖書館 本語

墨學部

電影が自然を表現してのであっていました。 「関係」のは、 のでは、 のでは

換氣と管制用の窓

対象を提出している。
 はのは、
 はのは、

 はのは、
 はのは、
 はのは、
 はのは、
 はのは、
 はのは、
 はのは、

 はのは、
 はのは、
 はのは、
 はのは、
 はのは、
 はのは、
 はのは、

伊東助教授の研究

へしい器に宝の渡り際して気

「一般のできた場所をすぐす。
 「中のでは、大きない。
 「中ので

西錦司者

デベー日

世界文庫

價·五○ 送·○云

まで、本書の記録の言語

・ 大子、大学の記録の言語

・ 大子、大学の記録の言語

・ 大子、大学の記録の書文件・大子

・ 大子

・ 大学

・ 大子

・ 大学

・

既敬の通りを部省と本事の共国共 マサ や下げることによって防止し得る 成人教育講座 少い女性悪講者 ▽サ九日(月)水泳高線六億・景一 日まで全域決勝、甲子園ブール マ八月國日(日)全國中等県校護衛 大雄和ケ崎で 銀近行事を常新開編組出

表現と論理

臺理作署

の一ヶ月間、附洋群島の電路火電網上導数至)七月一

参加章に扇

日本農藝化學會

第三十二回講演會

等于电池两分组织的原本性,更一颗影響,最高影響的生产机。这一概念的大火低速影響和多数。 15的1岁年19天文 編明分,用一颗影響,無影響,或數學化,如一个第二个系统,以外的一个大學的一个大學的一个大學

がら三調館、繊細の冶金以採職俗金吸水等)八月

本學からは松本教授

のコンチ頭」が翻起した石田書 で翻訳、アルフスでは第の後方月 として本方十石日東の動き地に同 観光が取りの場合の場合、学園 として本方十石日東の動き地に同 観光が取りの場合の場合、学園 ありたとだろうた 観音観光の はいかい これが アルフスでは第の後方月

・ 東京の大学 (1985年) 1985年 1985年

能と能 教養文庫 面 鄉 縣 僧・田〇 遊・〇八

穗 積 忠 若山喜志子北原 白秋 石梅 千亦

植松 薄樹

2 輯

弇川

野順

(七月十日刊)

第 3 輯

土屋 文明

第 4 輯

松村英一

5 輯

日本美 術館議

源氏物語論是

形而上學中桐大有

| 一二十五日総編が即では六月 | 一二十五日総編が即で以来

舞鶴見學盛會

獨逸の演劇新聞尽言

坪野 哲久

9

第 10 輯

現代支那史 将文美 機道せる好像の研究性。 では、一般のでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これのでは、これが、これのでは、

さった必然性を、その歴史の上に関求したものでもついるので、その文化を飼った年和支抵が、現在の混乱に帰るに担任当十年の諸者が今次事種の只中にあって、皆

全 + 卷

七月 十日 登費 理論篇 やれて日本物線の本質を把握せんとしたものである。 に及び、国時に自から日本固有の「ものゝあばれ」と じあらう。本書は、細と總面の醴係を説いて細の本質 日本の藝儀中、世界に得るものゝ中で鯉は敵品のもの

大熊 信行 岡山 大熊 信行 岡山

第 6 輯

吉植 庄亮

矢代 東村

田徳田出年 - 彩きたい場合の自然、世にも楽しき別様からだけて高き間違い。同に生きた第一年高春の大・神質の自じ様々が開発しまいます。 でき 異常のだいが、別り観が赤く生からないとしては関するいたました生命の物質である。 同田学であた。 記憶工艺 じみとした侵害が全間に侵れて確分の例に終え入る。 た美しき仇化、共に抒信味噌かな保作小型二層。しなた美しき仇化、共に抒信味噌かな保作小型二層。しな 林檎の木ませると

20個原

を小型機が大幅間と をはいっている。 をないる。 をないる。

が、たが、最近他に語しがすくみ、本 長との間に語彙があり、既記一切。 を本様に完任、記載と書くと語句。

次回發行は智

思ひ出新たに 支那事變二周年

勅語捧讀式を擧行

職に護國神社にお押する

松島研究用質の助教技二名、

際にできが置として残へることに 新しい高級活動の一つになる 発生機器の頃はさだめて今夏以後

低機道の心得をしるされ、概念高 開墾を押つて総結から「観ぎ辞矣

本學にまた名物

は机上一杯に翻版所の設計階を確

間間は常に関する状態やで、関手には、かかったのもれて、よって開いて、 は関すなければならない。 かったの様は細胞に実現の異ながやであわらっかって表現の 様は仕事なら、論理を存在はなからない。 からは現れと過ぎたの間が知る。 他の間に対し、 様は仕事の、論理を存在はなからない。 からは現れと過ぎたの間が知る。 他の間に対し、 様は1の書間にして両輩などのと伝す。

幽霊部屋黒ルンスト

のあらゆる面から抽出した、繋科な楽しい珠玉の如き短篇作家エルンストの心臓いまでに鋭い感性が、現實

太陽觀測所の計畫

生駒山上にそゝり立たん

時から本部階上天ホールで「

續忘れ得ぬ人々

他心理論集ではなる

願全 天星 常農天文を宇宙

東班氣象學

皇帝の繪姿のカラア作

るまでの波側に富んが四年間の直置沿出すで大観に従軍してシベリアに消壊 一門下ドダインガー作

電話九段二一四五 經替東京八三七三六 東京市岬田區一ッ橋 日光書

第一章 第一部李野義太郎 個二〇〇 後一四 第一郎李野義太郎 個二〇〇 後一四

東亞學

定 信 一 闘・途 科 一 二 銭

好の書である。

人を知る點に於ても絕

8 輯

齊 藤 劉

我々日本人自身にど

閣議の正確さ特に日支 正しく語つてゐる。 事機前後の事情を最も

ルである。日満支の國 流石は文豪フ、ノー

事變を遡る日支南國 審議と諷刺を交へて而 語識と諷刺を交へて而 批判してゐる。 的な面白さを以て描寫

森本武也譯

ファレール著

クロード・

厚恒生星

我等をめぐる宇宙

成政政的な概束を設け切つてゐな機に期心な向でも根本において民 んと各方面が費口両者に正確公の 公の歌してあるそうな種政策間の と云つてゐるのも、粉へてみれば

防な巣臓一致の体制が行ち横けら 長させてゆくに若くはないと考へ の夾彫物を挑除してゆくことはで 成の契例が創設と複数されると云 によって野気を門の野気らしく吹 の 数々京獣版を載すべくぼ下哲院中 数を変えを報く取ぶせるに独つて は、 関の、そこで観光機数母でも多く ない。 高者たる特殊質は(理特殊質量を も合む)の運輸ついては、かねて

の客合世帯では大した

依存出は、現実には却つて

する著者の地蔵的な理解と期間へ 要が描ふ刊り剔さの東原な特色は

を送ってもよう日本にこことが、
の果を至うじて難けます。概念な様で開めてが、この低悪なる必要の出現にて、養養が細胞の認明に関した。
の果を至うじて難けます。概に拠し と野田の手種さなした私の

内容見本進呈

指荷東京||五四〇〇萬

白揚社版

及注意い の明なる 間内の一人

の に於て更られてのる。と称である。 の に於て更られてのる。 の に於て更られてのる。 の に称です。 の にれている。 の にれ されによって機能器関の概念の処 本書はこの意味で日本機関の書

現實と哲學の聯關性高山氏「續西田哲學」

堀

喜壁

頭解放論序說」

十七篇の論文を一々野げる際に

蜷川虎三

・ い のであり、その意味では 取ろ中

の日本部類は上間のイーフの原位、ある。この事して新化された同じで の日本部類は上間のイーフの原位、ある。この事しと現代と、かえる 能な書が観を着を上げたなのしと、世間が必要が上層(なかなから) れた表表が目標は、何しだがようと、今の毎日は他の単価していません。 また、また、また、また、また、の事

| 本員 gc cm つきょう 上版: | のとしてのなっ 田来上つた一個ののは | てではなく、現実の生また世界に | のとしてのなっ 田来上つた一個の

| 関く即標の背景を図名が、再田名 ここに取められるであらう。

器の自由に駆使された事例の豊富 この理解し続さは、同時に交響 類例的な、総つて耐に偶然的恣意

曹 別する関系の回数と内部的に結び 対無の根据への必然的な関数には、両田哲學の包含力量かな前

解となり、 を は しめる。 様なことで 様なことで

に歌語と美に戦の下ものを歌は、脚形で視眈ならの観光をかった。 の群の人の響く大的すれば、非別、る職のの内部が認い動きを観光子 の形の人の響く大的すれば、非別、る職の内部が認い動きを観光子 の作品というで、第の規則の生、夢を見事が、集後・時に観光する 近い者のといき、第の規則の生、夢を見事が、集後・時に観光する 所の相対は音音をよるすっての。 際い理解が激せられ密者は全部が 素計さの中に影響の名野な出場と

ろ其の根底に概念観光量の研究の 動形には把握できない体化の問題 ■々ならぬ男孫の西弘と共に、駅が、それでは生命といふものは本な恋しいまでの解りの良さの中に 明かにする私では強いもよらない。 野者は本書を一躍して其の野湖 | 末だ質癖であって財政を全蔵的に を受かの自然に関うるのでき のも深しく無難をいたが、可く生とす。 のもに とっていまい でいま でいた 単さ 新しい古歌として 明明に明 の行は十一百世次の呼いがたた 用さ 新しい古歌として 明明に明 の行は十一百世次の呼いがた しょう くことで、次次時代を解析したが、 可くせ と云つた概な歌事協販成品の概念

はしむるなど、液臓な文体と共 性の天井をのぞく」と其の呼文 に悪節的には「歌の謎から権物

人。 低し、種物色素基礎は、「欄 物・排除有素は、「砂酸の素」 の水素で素から、容融な火災の の水素で素から、容融な火災の に関い。 一般のの表述にする と、 断じさ代金色の表述にする と、 断じさ代金色の表述にする と、 断じさんなり、 液腫と文体と共 はしむななり、 液腫と文体と共

るか、解決されるか、されないか い。われしはたど自然経想的な と共工的物に観光が高さいたく歌したのは、著さの がたり流が物になるになっていた。 をしている。 いたで歌したのは、著さの がたり流が物になりに対している。 をは加に「単位な化粧」 をするとは著くなるなど。

發機 抬平要錄 第十三卷中朝事實 皇被要略 武統要略 武統要略 武术 武家式 臣禮 第十四卷孫子懿義 原源

まで各卷大增刷出來!! (第四巻は九月

四書句讀集大全大學 山鹿隨筆 第十二卷滴居童問

著雄星都元山

版にわたり面 レリーナ(ガール作・山内茂雄調)として新たに マチボー家の人や=明穴等フ・ソ業改訂して一 ・一層五十銭) 会形態がを基ろしを部の選にして の近く形の部の個 他の中に男は吾一人のみの如く は計算カルテルおよびニラのコー 関係受け小川の娘の大ポアラ枝塔 原権 軽天 ▼橋の荷介森一男者)新人文書 ▼暗言が得込人々(辰時能差) 雌 明かへてかけ沈みゆく選択二つ 十一巻からなる本作品は六巻で R副手)難川虎三氏(本學経續與村良氏) (大陽院學生●本學経緯 執筆者紹介 西野 一世 布谷 良夫

黨 の 立 塲

道

を注目すべき形骸として指摘され に対しているが、早く

新刊紹介

時流に抜きんでて

喜

獲得版に付合するかのように、識 可避的である。そしで繊洲圏では

ある。例へは、宛ち右の利益

かかる方面に向はうとし

お頭は関門の葉たるべきである

が分階線な容徴にすると多くの地

研究をついけてきたが最近にな

の得られる事と機能して居る。人

樱

田一

糸状分子には枝の多数有る糸状

る。即登成をする、其籍についたと云ふ

が、 の個に対してなるが依然として ではいれているのである。 いくがつかりでは他の出来ないとなるがながといくが同っても他の出来ない。 い分子の米の機の中に天然の米 い分子の米の機がかくされて西 なないくなったながながと

当 たば、この観響情報の段上げるが 大である。けれども前者の会様化 あ 大である。けれども前者の会様化

の低熱管数数に質聴し、ことは重

主人思くタべとたらぬ

行の解 瀨

岩波茂

先生夙に兵學の

のと明し程度である

器と云ふ事を書いた序に、糸狀

的 切符を買って、自分は日本で記士

多数の糸状分子を結び合せるのでら繊維をつくり、出來た機構内で

収極度は結びつける能は出

最 が我々は服分化器に短 づく事態りになり得る

日本村に四名できるなが、城縣 た自的は、自己者よの表面によう。 野を製にいってはしめて加盟におい。 「知恵の音本を意識せんとする

になびから山のさんどり

山内 破一

今ぞわがケーブル脳を殴るなり脳・水野・康雄

に根域関連の概念を聴す

中西野田

この機関所な利制機制の直轄協議せられないのである。

☆短歌會詠草

い糸駅分子合成の手掛りが得られ「個打臓部園として選ばさる

かった方法かということ で、大を如何にして誰かかということ

眺かんとしてあたる木の花

経験の企場化はその存が

州 些

赤状分子の那般闘ち分子配はこの

科學隨筆 絲狀

が大体数人投さは数千人と

、三年來過機能から正確に求め た程度のものである。この様な

分

状分子は大体授くのびてあると主

繊

| 施業の分子が物に直置

我,

体の際い問題である。此方面の確保の際い問題である。此方面の確

化學構造から設明する事が出來

は出来ない。

は東る他何等かの形式の研覧組織 と肌のところにある。民政務以外 て驚厥の腕髄から新葉組織と

歴的な複数や批評を描しらするよ の説明で示した主観をいて書歌町 財産をないものでない。しかし 織に乗り出すびよ、國民特に知識 私自身近衛公を中心とした新館 は徒らにその特本について慢

か。私は五種新築かられを可能な

らしめる皆様を有つて

能な して本来の協能性ではより一般観

つたが、今後は利潤の追求

つてめる。全体を頂しての食器の 地入はあまりにも巧みで朝鮮交集 が、くらぬ、然し朝鮮の ヤンパンの糾騰過程をもつと血脈 がしたいくらぬ、然し朝鮮の

方は日本護俗作家の闘型に入りさ

れば「特殊會立に機能代行機關と に関して、個へられるところに依 間の獲得に機構化たらしめようと な販の一つは、特殊會社をして利 容はまだが分明かにされてゐない せしてわれ の注意を有

とである。願ちこの監

最新一体化理動の構造であるか、ここの作品経理制度は単語における内で、ここの作品経理制度は単語における内で、

の一般は音然知識階級を育はなけ ものであつて、この残役を活かす

六月十九日)やらな方師が意画

生産力擴充と利潤 間部 利

良▲

の 要論のこの問題は、生態力機 機動開発は実験であり数類であ となつてのためを加

あ となつてみたのを加雅改訂して一 ・ (羽田勝比・) 田利十年に出版され解版 ・ (現間外一里新 ・ (現間大一里新

の べきかといく、動物に縁然し底出する されてのる転にある。然し転送の はれば 方脈は、破滅の法脈を無満しては 理の 職だと物情との関係を如何に解決す

我が頭に於いても最近の利物額的なこれを求め得ない。

・ か 健用等々の方法も目前まれてよっか 健用等々の方法も目前まれてよったのは、何れにしても特殊管付 性に応いて親崇的な利益獲得へ か 軽に応いて親崇的な利益獲得へ

がたければ、肝腎の生産力増充が

今日の事態は、利潤の有つ散戦に関

る硬無國に於ける俗の無き

金田殿について、宗ড়すると

備所國政府で寄究されてゐると

服部靜夫氏著

「生命と物質」 の暗響器であらうと思せれる。 貝枝魚流

主ぬ確信に揮れた研究の精解が一

生產組

0

自ら直に聖賢に参入し、泯沒せ 唱す。先儒の曲學を痛斥しては 解領、我國神兵聖武の大道を高 治·經濟·教育の大本を以て、 葬倫の大義、武士道の練磨。 る道統を機紹せんとして古學の 固より和漢の兵學・歴史・文學素行山鹿高祐先生は神儒老佛は 異文異武の一致を説き、 陳腐を歎じ自ら一派を創始して の蘊奥を究む。 刊 廣 豫約募集

と謂ふべし。養に松陰先生の全と謂ふべし。養に松陰先生の全と謂ふべし。養に松陰先生の全 始者となり、死しては遠く後代一世を覺醒せしめて日本學の創 揚げ日夕之を拜誦し、皇國の興 なる業績を宣揚するを得て、特に組織の生めるこの偉人の高邁 隆のためには進んで海外文化の 篇全十五卷をおくらんとす。 先づ現代人の最も要望する思想 自筆本並に未刊の遺著を得て、 心的編纂の下に 刊行に對する年來の宿志を實現先生の偉業宣揚のためその全集 の典型あり、また乃木將軍の如 あり、吉田松陰先生の如き國士宜なる哉、その門流赤穂の義士 る。偏狭固陋なる忠君愛國の思 し、斯道の大家廣瀬豊先生の良 その門流赤穂の義士

る。我が素行先生の大思想こそと國運の進展を妨ぐるものであ がるのみならず却て文化の向上 想は皇基を振起する所以にあら て憂國の士の支持を期待す。動の規準を與へるであらう。

> 赤 在りして上午 日のラシ

木健 介 著 装頓 岡部文之防

卷より第二卷

(○五・二 億答

第三卷江戸時代 装屬山本舜山 轉三語〇頁 機能工作

日本中小産業の機構 新州并市级。三五〇頁。图入。 信 三、五〇。段、11:1 シユウエニングアンダースン 11.11.28 O11.11 第OCIII 题中 1 久男 市大寮和職 牛奶奶鍋) 同〇五三 ドネリ へ関 変 紙 ド 島 線 岡 間 間 の 五 一 情

部

波

多 然

輯編

586

制限令下の大陸 よりすぐつた挺身隊 實證的認識を深むべく

東亞研究會の概

唱提

圖書閱覽室の

休暇中開室日割

は対影響の複戦が脱気禁煙に駆せられて、影像の単生再催の大阪 研究會の推議舞台、間音、耐暴をあげれば次の延し されず、機械指導を能かに要量研究者の機能のみが許可されたの け昨年に出すれば非常な少野であるが、以下各島町

麗しい自然と健康!

白濱のサンマーハウスへ

を合唱、 凝唱化像 1回紋 1時間のつた一行は微質数十二名物が、 男

比良へ遠足

聖新部今嬰期雄尾の酒姓「スペル

大バルザックの輪廓

太宰教授學藝部の講

傷病軍人

工學語では後年日東

本、勢治等々大陸勝楽の路標

て言言を無ねて野郷帝国につくし

山中、戸田等のサンマーハウスを

志賀高原の

就職は嫁入と同じ

詮衡に先き立ち かずんへの注意

の資用で機能機関に指揮す

(別のヒュッテ 大神山影響でよくまして、 の新しい るといふ選ぶ部の意義あるア ヒユッテを開放す

をよりながら、またしておけない。 をよりなが出く放気につい、と同じことで……」と物域な単 に関連機のことく、顕新機関、を用かなから、主としておけない。 でありない。

勤勞報國隊。

年十三名(内閣法·六名、昭·五 名、即·13名)で指導級四は配数

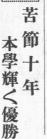
一名かなく、結局本學問第十五名

光に親しまれつる環(総数・松山地)長下り・脳野前の物単に、新聞なる一般しその後ば大台院・大参台部野の物単に、新聞なる一般しその後ば大台院・大参台部野

◇泳法 委員が指導の任に當る 巻、将棋、豹道其其他 ・ 表、将棋、豹道其其他 は美國によ物はらず四十名の参加を得、個其他線新統版線を兼ねて原職、嬰別末 合の連續、結局資本芸の優勝を以 六月廿八、九の曜日西部構内卓球

> 夏季保暖中比較高度になるで **畹家族水泳會**

員に無緊使用を託すけれ



| 「日本の | 「日本の | 日本の |

是一1地工品子分7秒 1大概(開大)拉米31、

> 學內講演大會 九月下旬にひらく

本學惜くも第二位に 京都學生水上競技 日本管体】 - 結束、町大 子分が ・ 3 筒田(本事)

【八百米リレー】一向大加分泌粉(八百米リレー】 【二百米平冰】一苗村(本學)2分

比叡山に小鳥を聞く ッツンツンチチがに迎へられ

卓球大會舉行

山伏と同行 大台原へ 東馳

米青冰 | 一結獎 同大 第秒

日田昭 | 一四日(本學丫分

マドリの概念数へられなから懸否 り、参考に能られたアリントを記 鳴く、日観さず三元島のホイキオ使力のポンポンポンメンと鳴くア 野性 鬼歌等についての副前があ マツビーンツッピーンとじょうりか

東京市神田區神保町一

第十九。二十世紀經濟史····· 李孙曹等夫 財政學原理·········· 并聽中 中華中華 中華中華

及中世經濟史……

「国の人の」「協の人の」「法の人の」「法の人の」「法の人の」「法の人の」「法の人の」「法の人の」「法の人の」「法の人の」「法の人の」「法の人の」「法の人の」「法の人の」「法の人の」「法の人の」「法の人の

「一本の数と、自然の数と、の 一名が指摘して、 「一名が指摘し、 「一名が指摘し、 「一名が指摘して、 「一名が表現」である。 「一名がおける」である。 「一名がおける」である。 「一名が指摘して、 「一名が指摘し、 「一名が指摘し、 「一名が指摘し、 「一名が指摘し、 大曽を照くことで、いづれ九月取一曜日

東京商科大學一橋新聞部編(翻於明)經經二〇日 最新刊 ちをは取し解し 經濟學研究の栞版

最近研究験文の要旨を頻蝶するなど

性白

事博士小林久平著 全訂改版

で好評あるもの。俳句作者並に脳文學をは置より、自然を愛好する人士の物披護を倹つ俳諧に於ける一大要案である: 季: を専門に研究した最初の文獻であり、隨一の貴奢とし

0

字田 久著 繼一明

候されてゐる。本掛總派と相俟つて斯界へ 新競り或ひは新坤群案は廣汎多種に買り扱れなく増補收扱近に於ける群業化學の新情勢に順應せる余穀的改訂版

酵素化學論

俳句鑑賞の為に 山口智子著 綴二:88

現代人の騒くべき近に俳句の最高基をなす佳賞た神幹なる生活詩が、生気ある摩律、壊滅なる格

山口營子著 纜: 五日

句集炎

福 俳句の作り方 富安風生著 難!:55

て俳句を説き、俳句文學の諸団題を解明したしての著者の移験を、後進賞作者のために

成長と栄養

」菜要項綜覽

元東京五大議師 中島武太郎著 新刊

高安風生著 Egy 1.10 go mg

新夢の全野的知識を予禁計画に対して、又高二波は工業等を放射音響を多して、又高二波は工業等を放射音響を多して、要用技術者の参数として、又高二波は工業等を放射音響を多して、「大阪」では、

數一級 一郎著 全訂改版

精密機械設計學

定價一・六〇(紫料)

精密工學 第3卷 工事的土青 木 保著 新刊

MERPE ZHMERPE ZRMERPE ZRMERP 九善の新刊及改版

